

第3次大分市商工業振興計画（案）の市民意見公募において寄せられた意見等の概要とそれに対する本市の考え方

意見提出期間：令和4年1月4日（火）～令和4年2月3日（木）

意見提出者数：2人

意見件数：5件

	意見の要旨	意見に対する本市の考え方
1	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの企業が事業を継続することが大変厳しくなっている。この計画に書かれているそれぞれの施策ごとの新型コロナウイルス感染症の対応を確実にいき、大分市が今後も発展していくような計画にしてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、新型コロナウイルスの感染症拡大により社会経済は大きな影響を受けており、市内の企業を取り巻く環境はより一層厳しさを増していると認識しております。</p> <p>本計画は、こうした背景を踏まえた上で策定しており、企業の事業継続力の強化に関する内容を新たに盛り込んでおります。</p> <p>また、22頁に掲載していますように外部の有識者からなり、適切な進行管理を行う「（仮称）第3次大分市商工業振興計画推進委員会」を設置し、本計画の着実な推進を図り、本計画のめざす都市のすがたである「にぎわいと活力あふれる豊かなまち」をめざします。</p>
2	<p>コロナ禍の中で大規模イベントを実施しても来場者数は期待できないのではないか。コロナ禍におけるイベント集客についての具体策を計画に盛り込んでほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、各イベントの来場者数は、コロナ禍前と比較し減少傾向にありますが、それぞれのイベントには、にぎわいの創出などの効果、役割があるため、今後も、イベント内容等を適宜工夫しながら実施してまいりたいと考えております。集客の方法等につきましては、イベントの内容や開催場所、新型コロナウイルスの感染状況等に応じて個別に検討する必要がありますことから、ここでは具体策については記載せず、60頁に掲載しておりますように、「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を十分に講じながら開催を支援します。」と記載した現行案のとおりとさせていただきます。</p>

<p>3</p>	<p>中心市街地で各種団体が実施するイベントの情報発信について、SNS 等を活用して効果的に実施する必要があると思うことから、計画の具体例にその旨を盛り込んではいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、SNS をはじめデジタルツールの活用はデジタル改革が進む昨今においては必要不可欠なものと考えておりますことから、15 頁の「(3) デジタル社会の進展」にて本市を取り巻く情勢の一つとして記載しております。</p> <p>現在、イベントの情報発信は市報や市 HP をはじめ、様々な媒体を活用して各種イベント等の周知を図っており、今後も、デジタルツールの活用による効果的な情報発信に努めてまいります。デジタルツールの活用はイベントの周知に限られるものではないことから、ここでは個別の具体例は記載せず、現行案のとおりとさせていただきます。</p>
<p>4</p>	<p>中心市街地の交通量の調査を年に 1 回実施しているようだが、1 回ではなく随時調査を行っていただくことで商店街関係者や交通拠点を運営している者にとって必要な情報を得ることができる。</p>	<p>大分市中心部における歩行者通行量調査につきましては、毎年 11 月の週末 3 日間、通行方向を確認しながらの計測を、調査員の目視により実施しております。</p> <p>今後については、通年で同様の計測が可能となる携帯電話基地局の運用データに基づく人の移動に関する統計情報について、費用対効果等も勘案しながら導入について検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>5</p>	<p>歩行者天国は、どこでその事業評価を行うのか、市として継続して行う行事として捉えているのか。</p>	<p>大分市中央通り歩行者天国は、中心部の商店街や大型店、市民団体などで構成される「大分市中央通り歩行者天国推進委員会」において事業評価を行われております。</p> <p>また、本市においては、行政評価制度の事務事業評価において、事業の評価を毎年度実施しております。</p> <p>本取組は、中心市街地のにぎわい創出や県内他市町村の魅力発信の場となっていることから、地方創生の実現に向けた取組として必要な事業と認識しております。</p>